

サロベツ原生花園園地跡地の修復



歴史

▶「サロベツ原生花園園地跡地」の歴史

「サロベツ原生花園園地」は1975年（S50）から木道やレストハウス、サロベツ原生花園自然教室が整備され、多くの人に親しまれてきました。

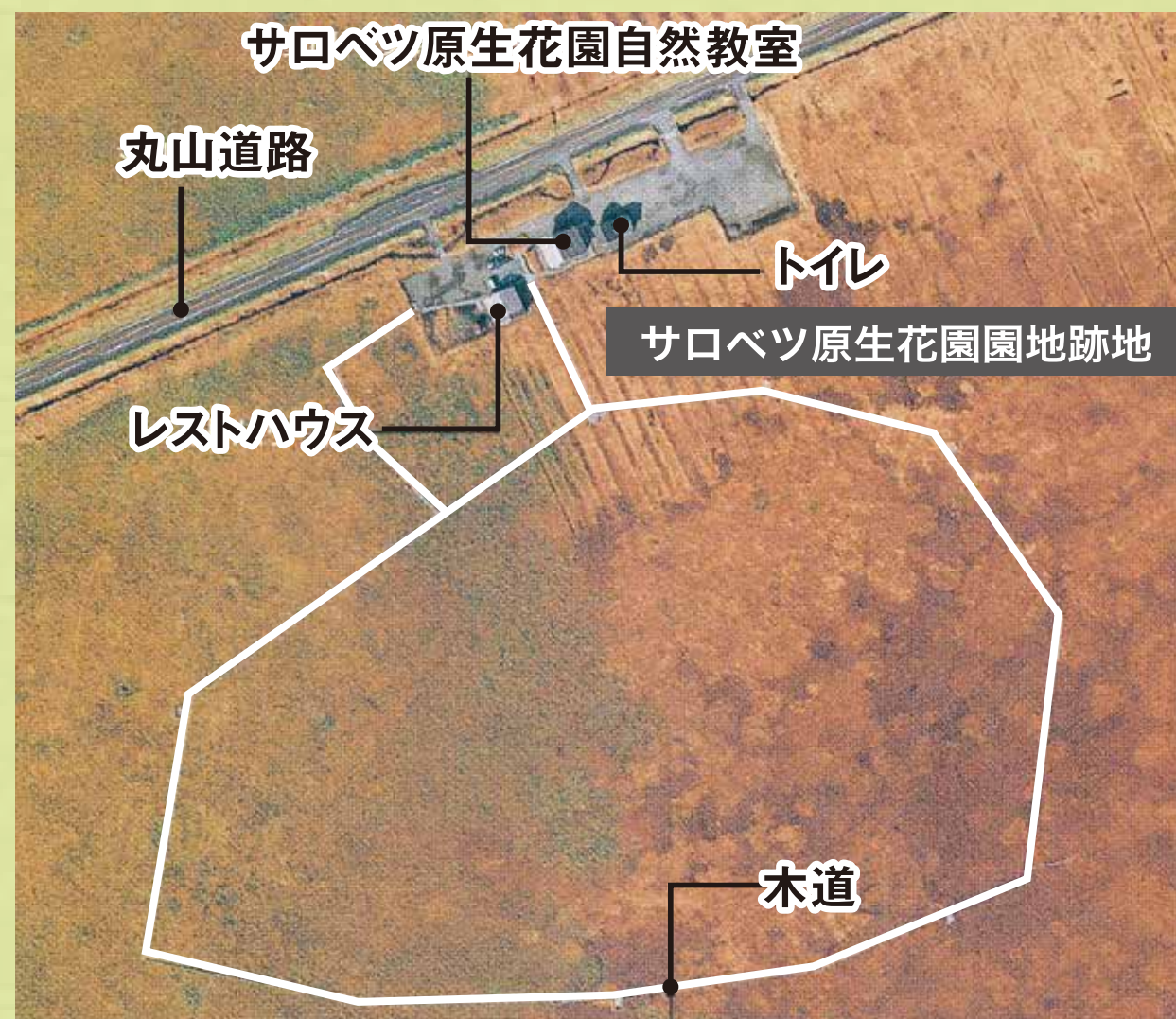
■サロベツ原生花園園地



1996年撮影



2005年撮影



問題

▶ 湿原の上に盛土をして整備されたため、湿原が消失するとともに、周辺の植生への影響が懸念されていました。

- 盛土及び施設の建設により湿原が消失
- 盛土による地盤沈下と道路側溝への排水により、湿原の乾燥化と植生の変化が発生



本来の高層湿原植生の面積が減少し、ササが拡大。

目標

▶ 「サロベツ原生花園自然教室」の機能を「サロベツ湿原センター」に移転し、跡地に周辺の湿原と調和する植生を回復させます。

■周辺の湿原植生



エゾカンゾウ



ノハナショウブ



タチギボウシ

サロベツ原生花園園地跡地では、周辺の湿原と調和する植生を回復させることを目標としています。

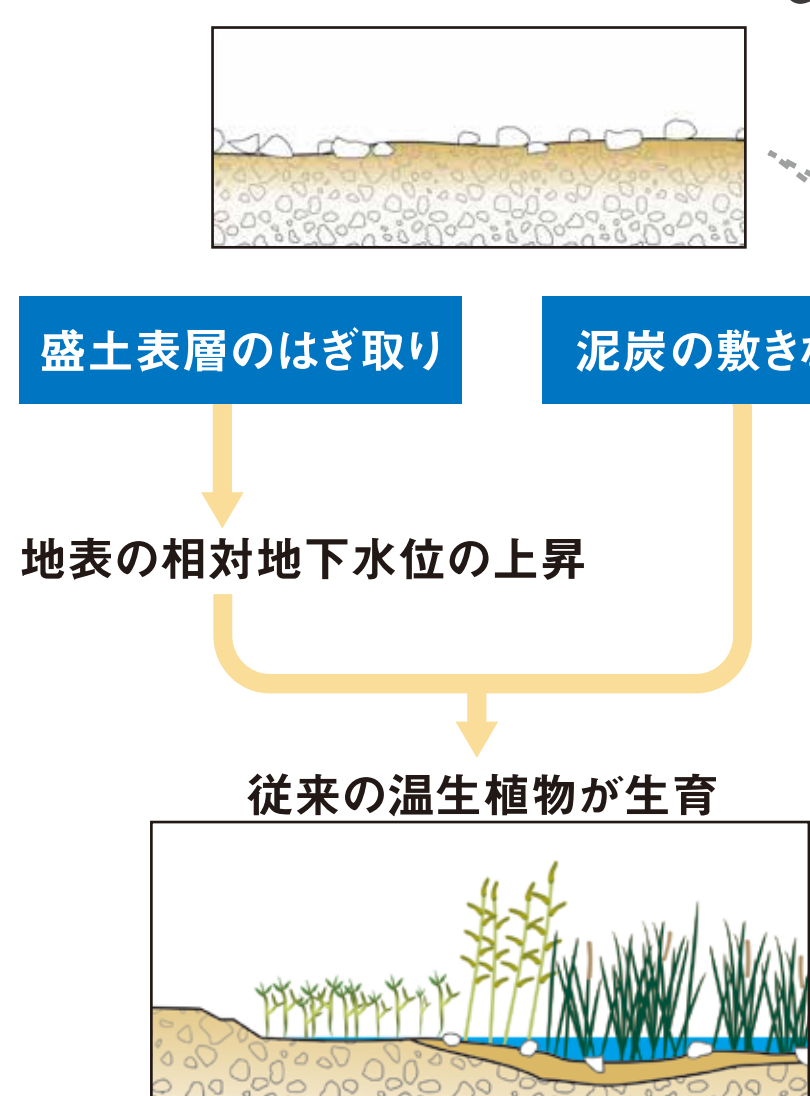
■サロベツ湿原センター



取り組み

▶ 「サロベツ原生花園園地跡地」では次の取り組みを行っています。

植生回復の流れ

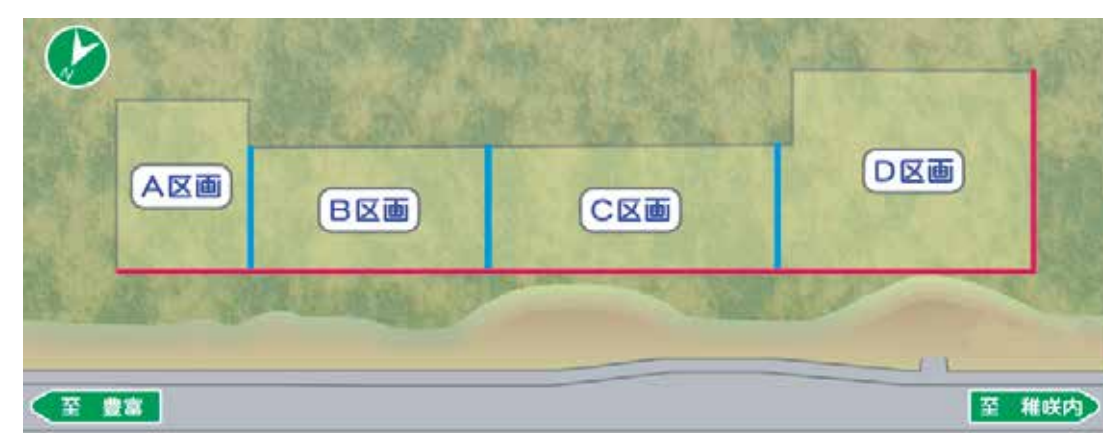


施設の撤去跡地では、表土をはぎ取って泥炭を敷きならし、湿原の植生に戻していきます。



モニタリングの実施

A区画からD区画では、泥炭の敷きならす厚さを変えて、植生の回復状況をモニタリングしています。



●A.C.D区画（表土掘削）※写真は、C区画



2011年7月



2011年10月

●B区画（表土掘削、泥炭埋戻し）



2011年7月



2011年10月